

施設における 感染症予防について

高槻市保健所 保健予防課 感染症チーム
令和5年11月6日(月)

～内容～

1. はじめに(感染症対策の基本)
 2. 感染性胃腸炎
 3. 結核
 4. 新型コロナウイルス感染症
 5. 保健所への報告
-

1. はじめに(感染症対策の基本)

感染症をすごく簡単に説明すると、 「体の異常を起こすウイルス・菌等が原因の病気」

ウイルス系

インフルエンザウイルス、ノロウイルス、新型コロナウイルス など

細菌系

腸管出血性大腸菌、肺炎球菌、結核菌 など

カビ系

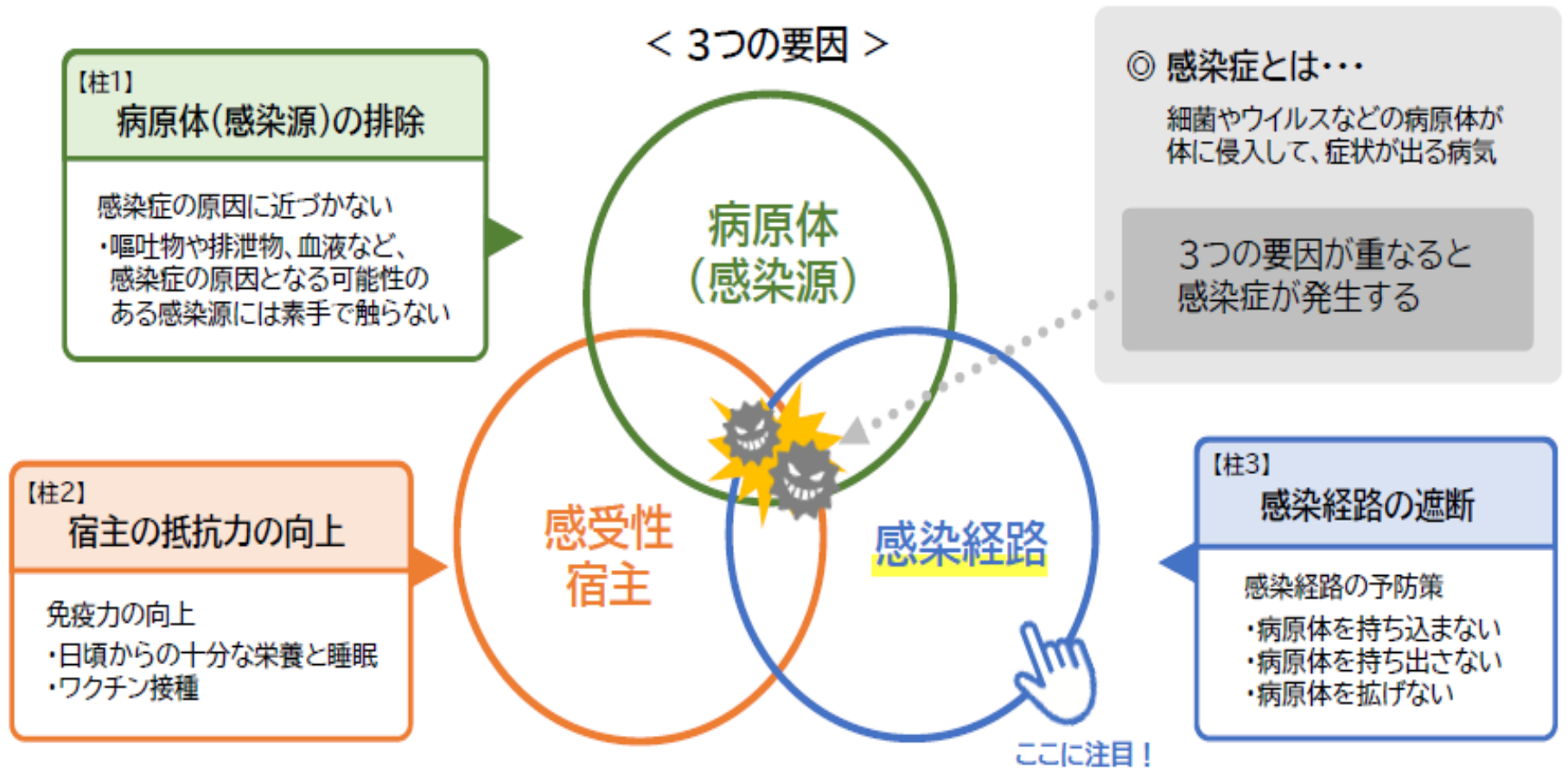
白癬菌、カンジダなど

その他

クラミジア、ツツガムシ、ダニ、マイコプラズマ、原虫、寄生虫など

ウイルス・菌等は空気中やいろんなところにいっぱいいます！

感染症が発生する3つの要因と 感染対策の3つの柱



感染症の原因となる微生物(細菌、ウイルスなど)を含んでいるものが感染源です。

《感染源として取り扱うもの》

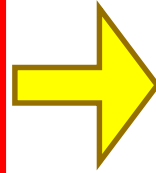
- ①排泄物(嘔吐物・便・尿など)、創傷皮膚、粘膜等
- ②血液・体液・分泌液(喀痰・膿など)
- ③使用した器具・器材(注射針、ガーゼ等)
- ④上記に触れた手指等

①②③は素手で触らず、必ず手袋を着用し、手袋を外した後は必ず手洗い、手指消毒をしましょう。

宿主の特徴

《高齢者》

- 内部環境維持機能が低下
- 免疫機能が低下
- 身体機能が低下
- 合併症を起こしやすい



少しの菌・ウイルス
量で発症し、
重症化しやす
い！！

どうやって感染経路を遮断するの？

平時から全ての
利用者に対して

- 標準予防策
(スタンダード・
プリコーション)



疑われる症状がある場合

- 感染経路の遮断
 - ① 空気感染
 - ② 飛沫感染
 - ③ 接触感染

標準予防策 (スタンダード・プリコーション) って何？

接する利用者の感染症の有無に関わらず、
平時から分泌物・排泄物・傷のある皮膚や粘膜は
すべて感染源とみなして予防策をとること。

手洗い

手袋

マスク

ガウン

ゴーグル

リキヤップ
の禁止

基本は手洗い！

◆手には微生物やよごれがつきやすく、手に付着した微生物が口や鼻などの粘膜から体内に入り感染症を引き起こす恐れがあります。処置前や処置の後に必ず手を洗うことが大切です。

◆手指衛生が必要な5つのタイミング

- ①利用者に触れる前 ②清潔操作の前
- ③血液・体液に触れた後 ④利用者に触れた後
- ⑤利用者周辺的环境に触れた後

まずは“平常時”にしっかり対策

①感染源(病原体)を

持ち込まない・拡げない・持ち出さない

②手洗い・うがい・環境の清掃

③日頃から利用者の健康状態を把握

④職員の健康管理

⑤マニュアルの作成

⑥研修や模擬訓練を実施

⑦体制・組織づくり



2. 感染性胃腸炎

(嘔吐物等の処理、消毒の仕方、発生時の対応など)

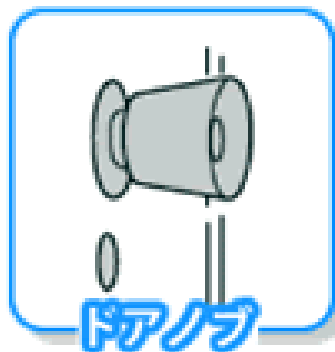
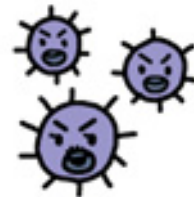
排泄物、嘔吐物の処理

感染した人の糞便や嘔吐物の処理は、処理をする人自身への感染と、施設内への汚染拡大を防ぐため、**適切な方法で、迅速、確実に**行うことが必要です。

<準備物品>

使い捨て手袋、マスク、使い捨ての防水性エプロン(ガウン)、拭き取るためのペーパータオル等、ビニール袋、次亜塩素酸ナトリウム(消毒液)、専用バケツ

ノロウィルスは こんなところに潜んでいます



手すり、ベッド柵、汚物処理室、
エレベーターボタンなど…

靴底やカーテンなどに潜んでいることも…
共用タオルの使用はないですか？

消毒

病原体を、感染症を起こさない程度にまで殺菌
または減少させること

◎熱による方法

85～90℃で90秒間以上

◎消毒薬による方法

- ・消毒したい病原体に効果のある薬品を選ぶ
→ 次亜塩素酸ナトリウム
- ・消毒薬は汚れを落としてから使う

消毒薬について



次亜塩素酸ナトリウム

(家庭用塩素系漂白剤・・・ハイター／ブリーチなど)

- 消毒は、原則「噴霧」ではなく「**清拭**」で行う
- 家庭用酸素系漂白剤(ワイドハイターなど)では効果がない
- 金属は腐蝕させるので、使用後水拭きする



注意点

～消毒効果を低下させないために～

- ・作った消毒液は、時間の経過とともに効果が減少する。こまめに作って使い切りましょう。
- ・消毒液の容器の蓋を忘れずに・・・
- ・汚れた衣類等をバケツ等に入れた消毒液に浸してつけ置きした場合は、一回毎に消毒液を入れ替える。



家庭用塩素系漂白剤を使った消毒液の作り方

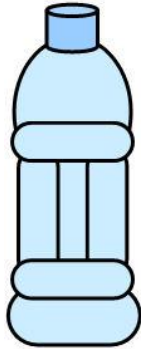
便や嘔吐物が付着した床・衣類・トイレ

トイレの便座やドアノブ・手すり・床など

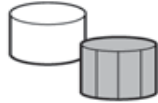
0.1%(1000ppm)

濃い

500ml



500mlの水



キャップ2杯

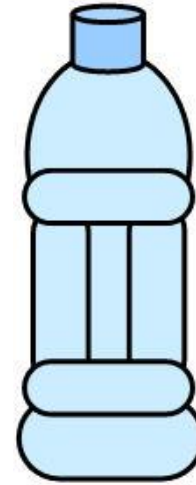
(1杯は約5cc)

塩素濃度約5%
のものを使用し
た場合

0.02%(200ppm)

薄い

2ℓ



2000mlの水



キャップ2杯

(1杯は約5cc)

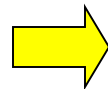
$10\text{ml} \times \text{約}5\% / 2000\text{ml} = \text{約}0.02\%$

$10\text{ml} \times \text{約}5\% / 500\text{ml} = \text{約}0.1\%$

・どちらも**キャップ2杯**
(ペットボトルの大きさを覚えて！)

感染症かな？と思ったら

下痢・腹痛・嘔吐などを
訴える人が多い

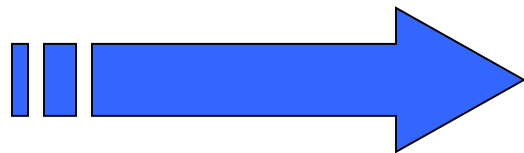


必要に応じて、
医師の診断を受ける

- ・いつから？
- ・症状は？ 下痢・・・どんな？
腹痛・・・どのあたり？
発熱・・・何度？
嘔吐・・・何回？
その他の症状・・・発疹、咳など

他に体調不良の利用者
や職員がいないか確認

感染拡大防止
対策の実施



保健所へ報告

感染症発生時の対応

① 二次感染防止対策を徹底する

- ・手洗い
- ・排泄物・嘔吐物の速やかかつ適切な処理
- ・リネン類の洗濯・消毒
- ・施設内の消毒

② 接触を制限する

通所者...症状が治まるまで利用をしばらく止めてもらう

入所者...有症状者の部屋を分ける。(個室対応、逆隔離など)

来所者 ...

来所時や帰宅後の十分な手洗い・うがいの励行を指導
施設内で流行しているときは、来所を控えてもらう。

来所者自身が体調不良のときは来所を控えてもらう。

集団活動の自粛

感染症発生時の対応

③調理従事者からの二次感染対策

身につけたウィルスを食品につけて感染を広げる可能性が考えられる。

⇒石鹼で十分な手洗い励行

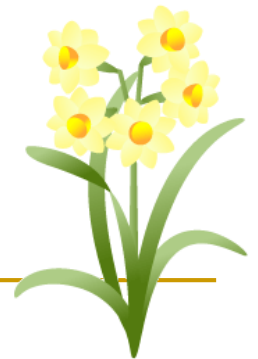
盛り付けや配膳時の作業には、使い捨て手袋の着用を習慣化する。

④接触者の経過観察

作業にあたった職員、周囲にいた方々の健康観察を3日程度行う。

感染性胃腸炎(まとめ)

- ノロウイルスによる感染や感染拡大を防ぐためには、早い段階で感染が疑われる人を把握すること。日頃からの健康管理が重要。
- 施設においてはウイルスを持ち込まない対策も重要。
- 二次感染の予防方法は、全職員が感染対策を正しく理解しておくことが大切。理解したうえで、効率よく実施しましょう。
- 日頃からの手洗いを徹底しましょう。



3. 結核

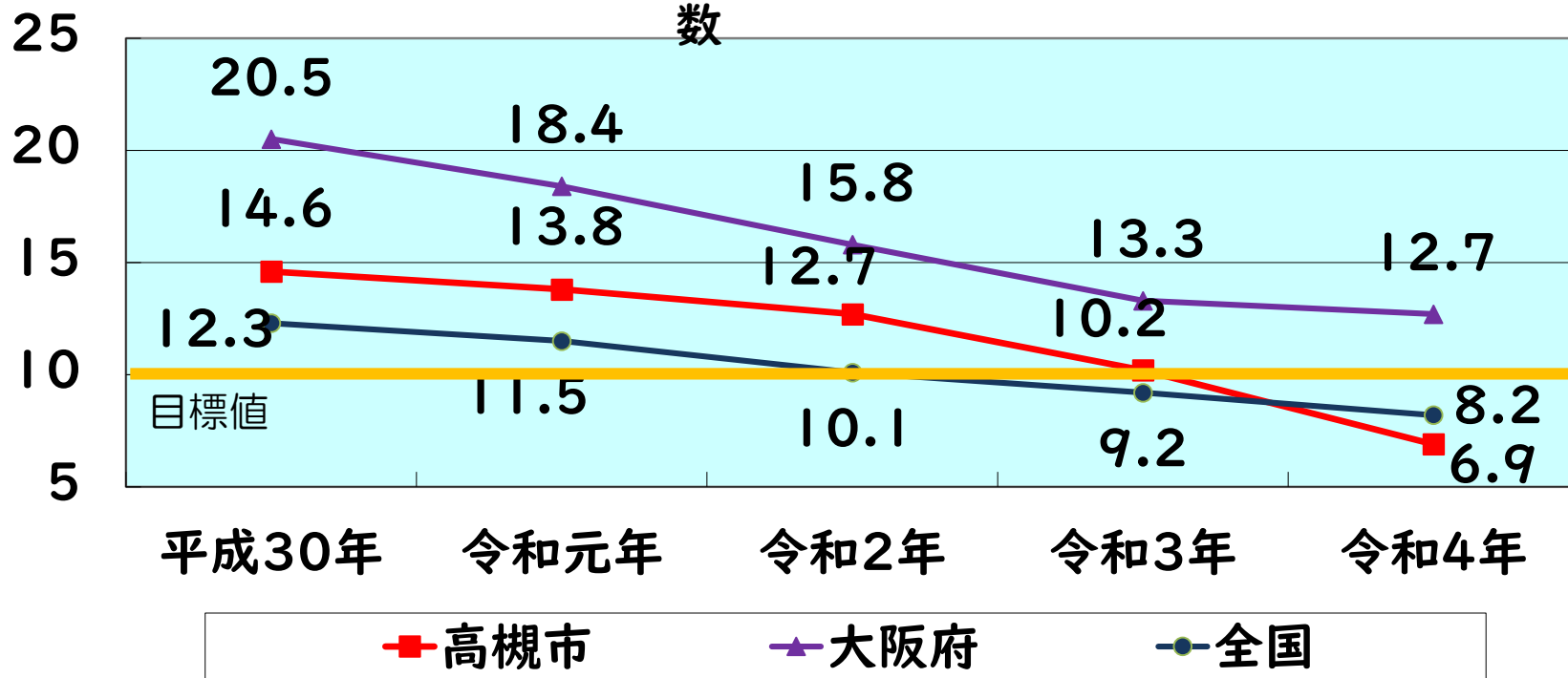


高槻市の結核

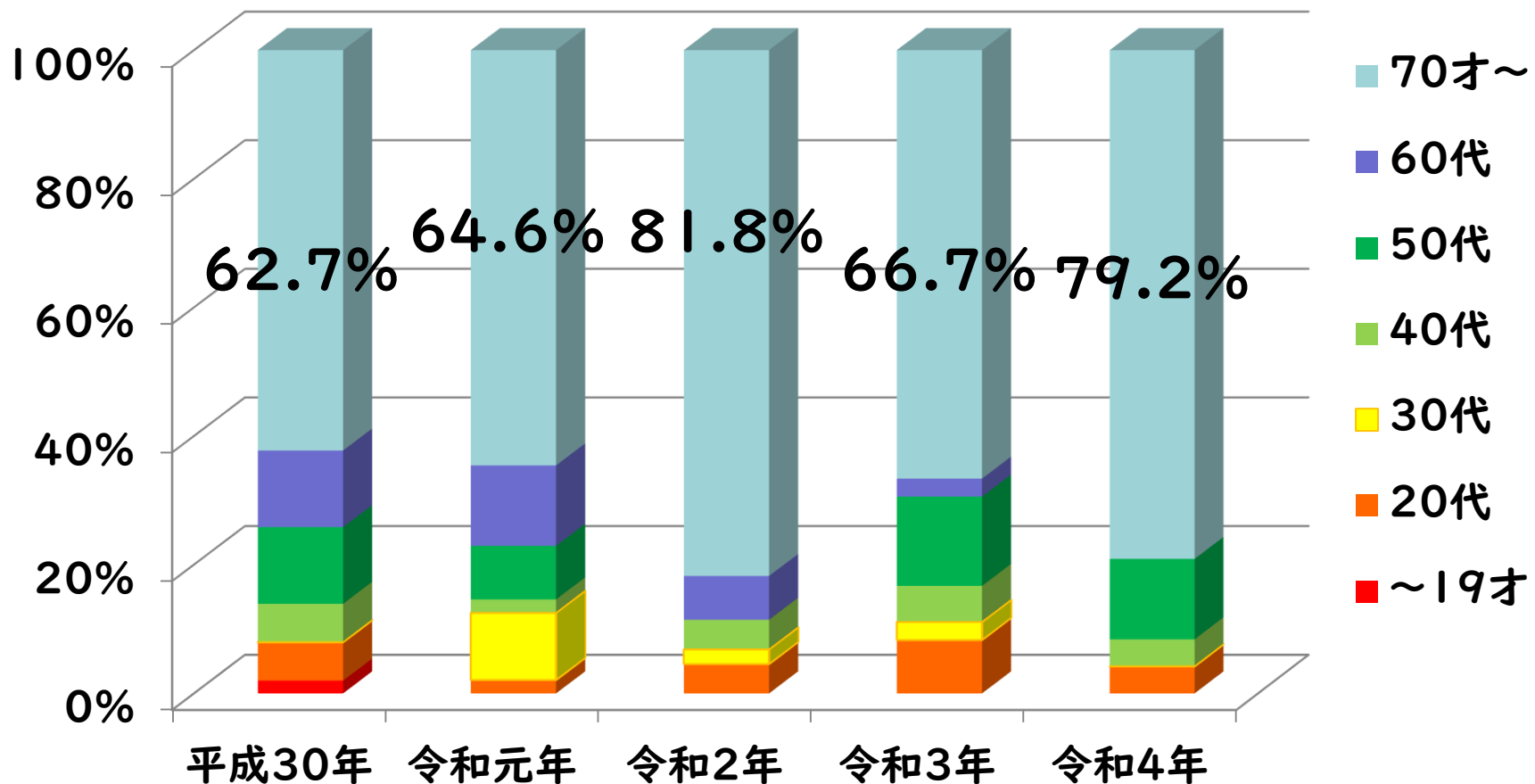
令和4年の結核罹患率「6.9」・新登録患者「24人」

罹患率

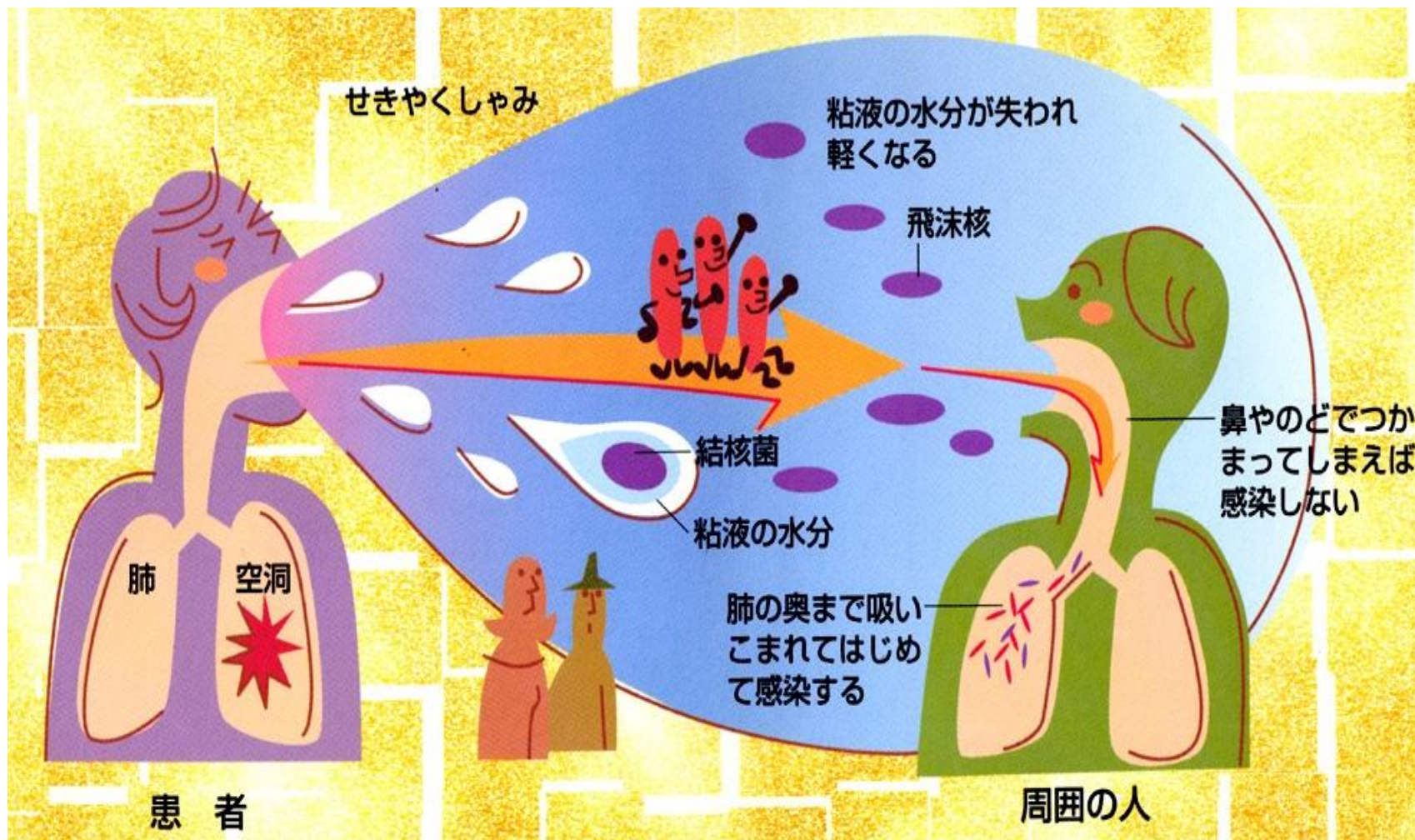
※罹患率：人口10万人あたりの新登録患者数



年代別患者数割合・新規登録患者数



結核は**空気感染**です



感染と発病は違います！

たとえ結核菌に感染していても、
全員が発病するわけではありません。

発病しなければ、他の人に結核菌を
感染させることもありません。



どんな人が結核を発病しやすいの？

前に結核にかかったことがある

糖尿病

人工透析を受けている

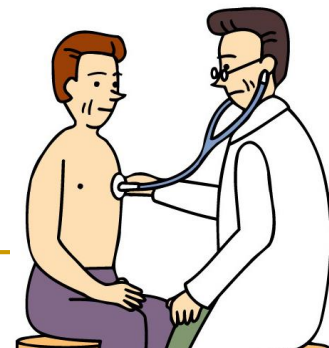
ステロイドなどによる治療

免疫が低くなる病気

強いストレス

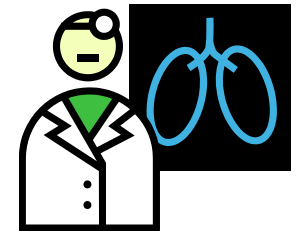
胃の切除手術をした
胃潰瘍の治療中

不規則な生活
(休養・栄養)



予防のために

- ①利用者の結核の既往歴(陳旧性肺結核含む)や必要であれば家族歴・接触歴も確認する。
- ②2週間以上続く倦怠感、食欲不振、咳、発熱は結核の可能性あり。
- ③年に1回の胸のレントゲン検査の確認を。
- ④食事介助や痰の吸引など咳を誘発しやすい行為は、マスクを着けて実施する。



万が一、発生したら

<患者本人には>

- ・結核の治療

入院(必要時)、定期的な通院、服薬治療

- ・服薬管理

服薬後の空袋などでの確認

<かかわりのある施設には>

- ・接触者の調査

スタッフ、同室利用者等のリストアップ

- ・健康診断(感染していないかの確認)

胸のレントゲン、血液検査

以上、ご協力いただくことがあります。

4. 新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの違い

	新型コロナウイルス感染症	インフルエンザ
感染経路	飛沫、接触、飛沫核(空気)	飛沫、接触、飛沫核(空気)
潜伏期間	2~7日(中央値2~3日)	平均2日(1~4日)
症状	発熱、呼吸器症状、倦怠感、頭痛、消化器症状、鼻汁、味覚異常、嗅覚異常、関節痛等	悪寒・頭痛・高熱で発症。頭痛とともに咳、鼻汁で始まる場合もある。全身症状は、倦怠感、頭痛、腰痛、筋肉痛等。
感染期間	発症前から発症後5~10日間(個人差あり)	発熱1日前から3日目をピークとし7日目頃まで。
治療	抗ウイルス薬(ラゲブリオ、パキロビット、ゾコーバ等)	抗ウイルス薬(タミフル、リレンザ、イナビル、ラピアクタ、ゾフルーザ)

日常業務では、何に気をつければいいですか？

基本的な考え方

①施設内に持ち込まれないようにする。

※職員の持ち込みも注意

②発症してしまったら、感染拡大を可能な限り防止し、被害を最小に抑える。

③施設内感染対策委員会等を設置し、事前に行うべき対策(事前対策、感染防護具や消毒物品の備蓄)、実際に行うべき対策(行動計画)を各々の施設の特性、入所者の特性に応じて手引きを策定しておく。

(参考:インフルエンザ施設内感染予防の手引き /厚生労働省)

感染経路別の予防策

①飛沫感染について

ウイルスを含む飛沫(くしゃみのしぶき等)が、目・鼻・口などの粘膜に触れることで感染します。

新型コロナウイルス感染症・インフルエンザの感染経路の主体と考えられています。飛沫は粒子が大きく($5\mu\text{m}$ 以上)、落下しやすい(数秒～数分)。到達範囲は2m以内。

▶目の粘膜の保護:アイシールド、ゴーグルまたはフェイスシールドを着用する。

▶鼻・口の粘膜の保護:日常的にN95マスクを着用する必要はなく、基本はサージカルマスクで対応。

感染経路別の予防策

②接触感染について

感染している人との接触や汚染された物との接触により感染します。新型コロナウイルス感染症は皮膚表面から体内に侵入することではなく、ウイルスが付着した手指で目・鼻・口の粘膜に触れることで感染が成立すると言われていています。

- ▷手指の清潔維持:手洗い、手指消毒を実施する。
- ▷環境の清潔維持:床や壁ではなく、高頻度接触部位を拭き取り消毒する。
- ▷衣類への付着防止:患者や患者の周辺環境に身体が密着する場合に接触することや飛沫を浴びることが予想される部位に応じて、ガウンまたはエプロン手袋を着用する。

感染経路別の予防策

③飛沫核感染について

飛沫より粒子の小さい(5 μ m未満)エアロゾルが数時間程度空气中を漂い、目・鼻・口などの粘膜に触れることで感染します。

【エアロゾルが発生する場面】

咳やムセがある場合、喀痰吸引や口腔ケアを実施する場合等

- ▶小さいエアロゾルが発生する場面では、N95マスクの着用の対策を実施する。
- ▶エアロゾルの滞留防止:風の流れをイメージして換気する(グリーンゾーンからレッドゾーンにむけて)。

新型コロナウイルスの感染対策

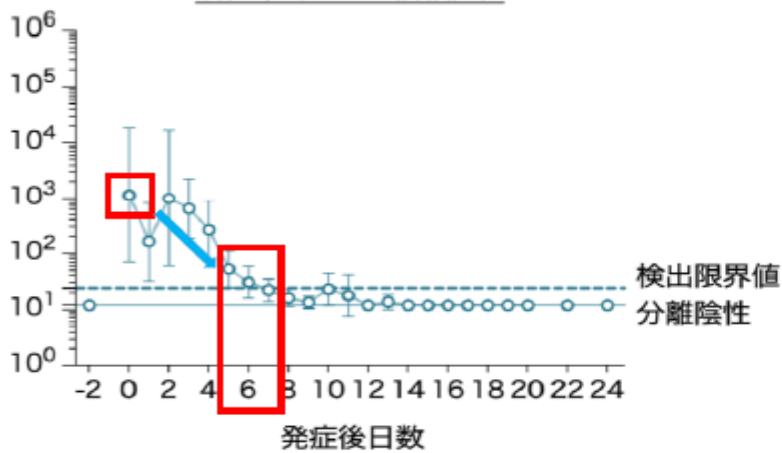
陽性者に対して感染対策が必要な期間

陽性者についての療養の考え方(参考)

- 発症後5日間が経過し、かつ解熱および症状軽快から24時間経過するまでは外出を控えることが推奨されます。
- 発症後10日間が経過するまでは、マスクの着用等周りの方へうつさないよう配慮をお願いします

有症状者における感染性ウイルス量 (TCID₅₀/mL) の推移

幾何平均±95%信頼区間



出典：令和5年4月5日 第120回アドバイザリーボード資料3-8

発症後のウイルス排出量の推移を分析したところ、6日目（発症日を0日目として5日間経過後）前後の平均的なウイルス排出量は発症日の20分の1～50分の1（注）となり、検出限界値に近づく

（注）発症後5日～7日目のウイルス量

新型コロナウイルスの感染対策

接触者に対して感染対策が必要な期間

- 令和5年5月8日以降は、新型コロナ患者の濃厚接触者として法律に基づく外出自粛は求められなくなった。



新型コロナウイルスの感染力に大きな変化はないので

- ・陽性者発生時に、周囲の利用者や職員との接触状況を確認。
- ・接触状況から誰を接触者として対応するか検討。
- ・利用者であれば、居室の移動等対応が必要か。
可能であれば、個室対応が望ましい。
- ・潜伏期間を念頭に、いつまで感染対策を行うか検討。
- ・施設内で周知を行う。

新型コロナウイルスの感染対策における間違いやすいポイント

①陽性者の隔離のために部屋を移動した時

もとの部屋は消毒したほうがいい？

 **使用予定がなければ、消毒する必要はありません。**

▷72時間程度経過すると新型コロナウイルスは不活化します。
使用予定がない場合には、72時間放置させてから通常通りの
清掃・消毒をしましょう。

【陽性者が発生したら】

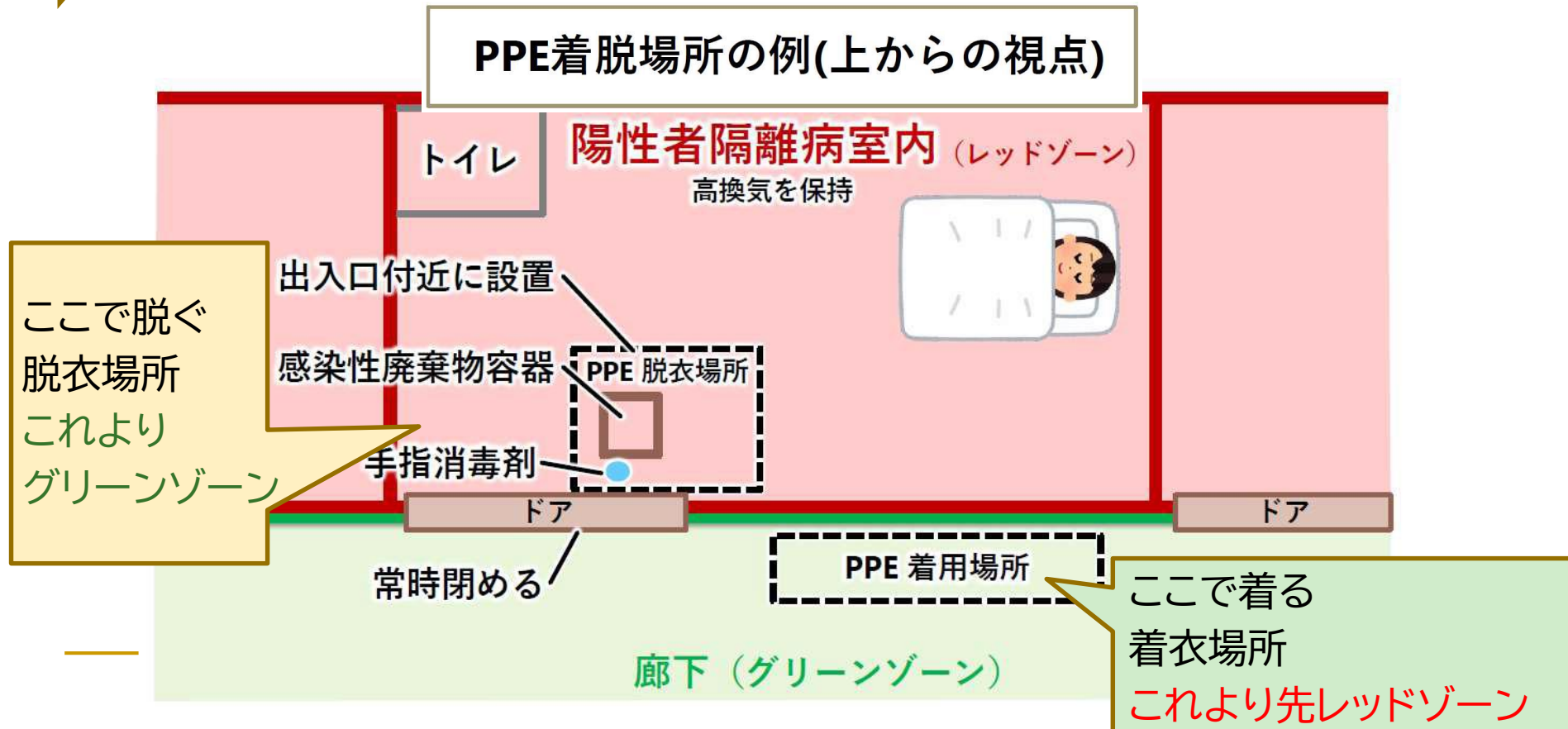
- ◎まずは施設内での取り決めに従い、情報共有しましょう。
- ◎陽性者の生活空間をその他の入所者とどのように分けるか検討し、職員全体で情報共有を図りましょう。
- ◎ゾーニング・動線の検討、防護具の準備

新型コロナウイルスの感染対策における間違いやすいポイント

②個人防護具等について

個人防護具を着る場所・脱ぐ場所は同じところ？

➡ 着る場所はグリーンゾーン、脱ぐ場所はレッドゾーン。

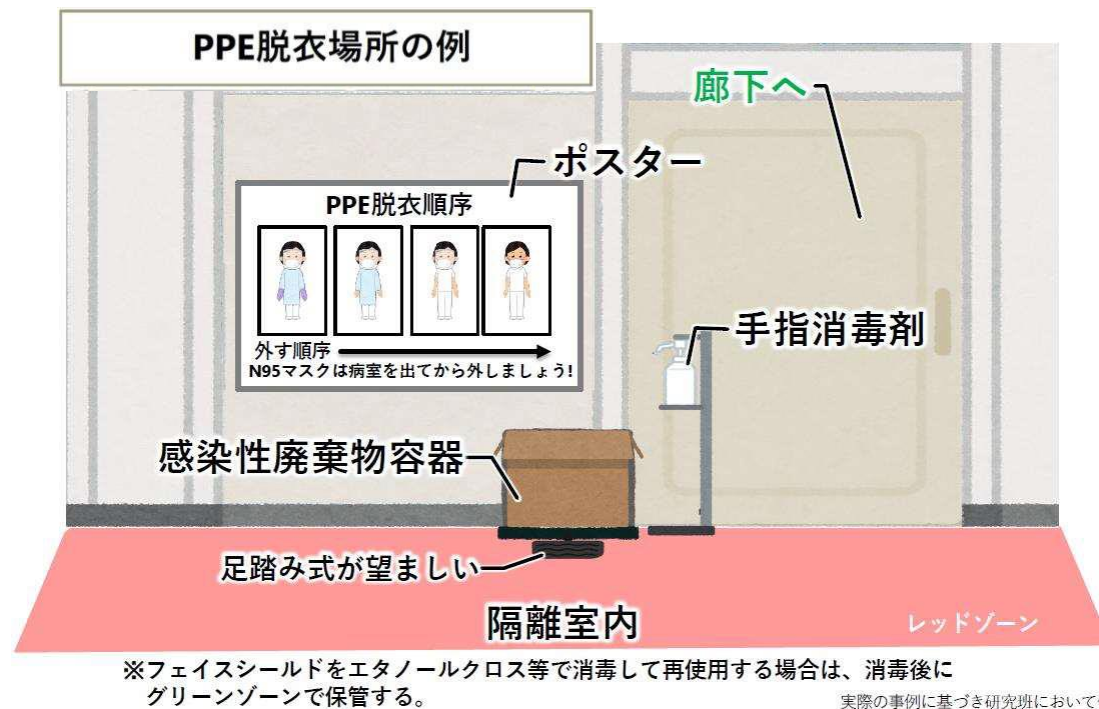


新型コロナウイルスの感染対策における間違いやすいポイント

③個人防護具等について

個人防護具に着脱は、順番なんて関係ないよね？

➡ 脱ぐときがもっとも危険です。脱衣手順を守りましょう。



◎個人防護具は、着るのも脱ぐのも順番があります。着脱場には、個人防護具の着脱順を貼ったり、姿見を置くのがおすすめです。

新型コロナウイルスの感染対策における間違いやすいポイント

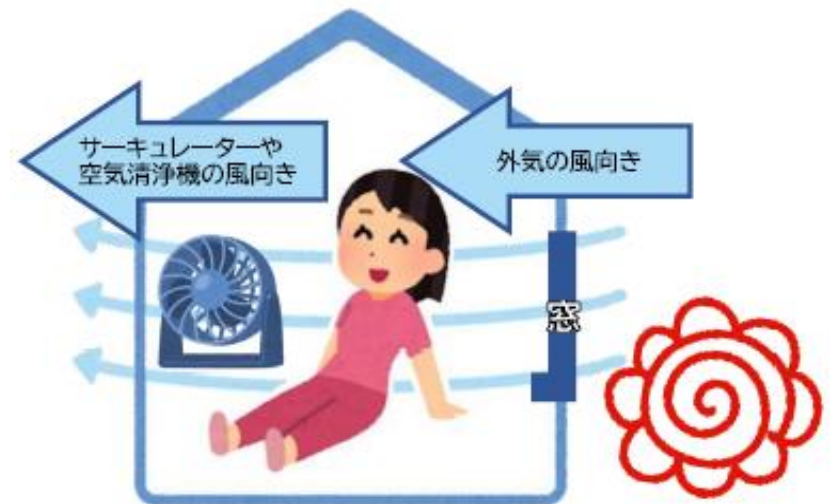
④換気について

空気清浄機があれば換気はいらない？

➡ **空気清浄機だけでは換気できません。**

▷空気清浄機は、換気を補うものとして、窓開け換気に加えて活用しましょう。

◎対角線上に窓を開け、サーキュレーター等も利用して風の通り道を作りましょう。



新型コロナウイルスの感染対策における間違いやすいポイント

⑤消毒について

空間や衣服へ消毒液のスプレーをした方がいい？

➡ スプレーする必要はありません。

▷スプレーは、消毒液が「点」でつくだけで、「面」を消毒できないため、空間や衣服に噴霧する必要はありません。

▷アルコールは引火性があるため、空間噴霧はやめてください。

◎頻回に手で触れる箇所(ドアの取手やノブ、手すり、スイッチ、蛇口等)を一方向に拭き消毒しましょう。

◎こまめに手洗い又は手指消毒を行いましょう。

新型コロナウイルスの行政検査について

- 入所者または従事者が新型コロナウイルス感染症と診断された場合、クラスター対策のため、検査を希望する施設に、抗原検査キットの配布を行っています。
- 対象施設: 入所系の高齢者施設、障がい者施設、救護施設
- 対象者: 陽性者が発生したフロアの入所者・従事者
 - ※陽性者の陰性確認には使用できません。
- 検査方法: 希望する施設は事前に保健予防課に発生状況を電話連絡のうえ、抗原検査キットを保健所で受け取り
- 来所前に必要事項を記入した用紙の提出が必要です。
- 期限(予定): 令和6年3月31日まで

5. 保健所への報告

平成21年11月4日付

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」

- インフルエンザ
- 感染性胃腸炎(ノロウイルス等による)
- 食中毒等
- MRSA
- 疥癬

以上の疾患でなくても、通常の発生動向を上回る感染症等が疑われ、施設長が必要と認めた場合

報告の基準(H30年6月時点)

- ①インフルエンザと感染性胃腸炎、またはそれを疑われる者が、**回復者を含め10名以上(延)**または、施設利用者の半数以上の発生があった場合
- ②インフルエンザと感染性胃腸炎を除く、同一の感染症またはそれを疑われる者が**複数名以上**発生した場合
- ③同一の感染症もしくはは食中毒による(疑いも含む)**死亡者、重篤患者(入院患者など)**が**1名**でも発生した場合
- ④ ①～③に該当しない場合であっても通常の発生動向を上回る感染症等が疑われ、施設長が必要と認めた場合

*新型コロナウイルス感染症についても、令和5年5月以降は、上記の基準通りとなりました。10名以上の発生時、または、死亡者や重篤患者の発生時等にご報告をお願いします。

感染症連絡票

ご記入の上、
FAXでご報告を。

(とりあえず電話で相談も構いません。)

※高槻市ホームページのキーワード検索で、「感染症連絡票」を検索すると、エクセル様式でダウンロードすることができます。

関係部局 行き _____ 平成 年 月 日

保健所 FAX 661-1800

関係部局 FAX _____

感染症連絡票
「インフルエンザ・ノロウイルス等感染性胃腸炎・疥癬・MRSA・食中毒等」

施設名	連絡先電話番号(_____) FAX(_____)	
	E-mail (_____)	
	記入者 氏名 _____	職種 _____

1. 患者数 _____ 名(_____ 年 月 日) _____ 人中 職員数 _____ 人

2. 患者内訳

	性別	年齢	症状及び出始めた時期	医院名 診断日	入院	転帰	ワクチン 接種	備考
1	男・女	歳	月 日	月 日	無有(月 日)	快復 観察中 退院 死亡 (月 日)	有・無	
2	男・女	歳	月 日	月 日	無有(月 日)	快復 観察中 退院 死亡 (月 日)	有・無	
3	男・女	歳	月 日	月 日	無有(月 日)	快復 観察中 退院 死亡 (月 日)	有・無	
4	男・女	歳	月 日	月 日	無有(月 日)	快復 観察中 退院 死亡 (月 日)	有・無	
5	男・女	歳	月 日	月 日	無有(月 日)	快復 観察中 退院 死亡 (月 日)	有・無	
6	男・女	歳	月 日	月 日	無有(月 日)	快復 観察中 退院 死亡 (月 日)	有・無	
7	男・女	歳	月 日	月 日	無有(月 日)	快復 観察中 退院 死亡 (月 日)	有・無	
8	男・女	歳	月 日	月 日	無有(月 日)	快復 観察中 退院 死亡 (月 日)	有・無	
9	男・女	歳	月 日	月 日	無有(月 日)	快復 観察中 退院 死亡 (月 日)	有・無	
10	男・女	歳	月 日	月 日	無有(月 日)	快復 観察中 退院 死亡 (月 日)	有・無	

感染症発生状況表(感染性胃腸炎のみ)

患者発生状況					施設名 :												
入所者		階			名												
氏名 (イニシャル)	年齢	性別	部屋No	所属	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	検便	備考	
例	H・N	87	女	212	2F	嘔吐	嘔吐 下痢	腹痛	症状 なし								胃ろう・下剤使用
1																	
2																	
3																	
4																	
5																	
					新規患者												
					累計患者	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
職員					名												
氏名 (イニシャル)	年齢	性別	職種	所属											検便	備考	
1																	
2																	
3																	
4																	
					新規患者												
					累計患者	0	0	0	0	0	0	0	0	0			

保健所としては・・・

- 施設内で、感染の拡大を防ぎたい
- 重症・死亡といった事態を避けたい
- 集団感染を起こさせない



施設の方々と一緒に対応を検討し、
終息まで一緒に見守ります

感染症に関するご相談は
高槻市保健所保健予防課
感染症チーム
072-661-9332まで
ご連絡ください
